

## 第4章 お手入れ行事計画

### 1 基本的な考え方

昭和41年に温泉郡久谷村(現松山市久谷町)で開催された「第17回全国植樹祭」は、当時の時代を反映して、「精英樹による拡大造林」を開催テーマに参加者13,000人によりスギ・ヒノキの苗木30,000本を植樹している。将来立派な森になるようにとの昭和天皇の御発案から、3本ずつ「森」の字の形に植えられた「お手植え木」は、参加者が植えたまわりの木とともに、現在、40年生を超える豊かな森林へと成長している。

全国育樹祭は、「親が植え、子が育てる」という育樹運動のシンボリック行事として実施されているが、本県で開催される第32回全国育樹祭では、全国植樹祭で造成された森林を最大限に活用し、森林や緑を守り育てることの大切さを広く普及啓発するため、皇族殿下に昭和天皇・香淳皇后がお手植えになられた「スギ」のお手入れを行っていた。

### 2 お手入れ行事計画の概要

#### (1) お手入れ対象木

昭和天皇・香淳皇后お手植え木

- ①樹種：スギ                      ②樹齢：43年生（平成20年時）
- ③本数：各3本（合計6本）

#### (2) お手入れの内容

お手植えのスギ6本の根本付近にて、豊かな森林土壌の生成の促進を目的として「森林土壌生成促進材」の散布を行っていただく

- ①森林土壌生成促進材を「木製の器」から、お手植えスギの根元付近へ散布いただく
- ②散布した森林土壌生成促進材を、「木製の鍬」を使用して土壌となじむよう均していただく。

#### (3) お手入れ手順

「御着」→「植樹祭パネル御覧」→「御製パネル御覧」→「お手入れ」→「御発」

#### (4) お手入れ道具

木製の器 2個                      木製鍬 2本

(5) 森林土壌生成促進材

森林土壌生成促進材とは、次のようなものを混合して作る。

久谷ふれあい林の森林整備で発生 特用林産物の生産で発生 歩道開設工事で発生

枝葉や根株等の木チップ、木炭 + シイタケ廃ほだ木 + 現地発生土

豊かな森林土壌の生成

→ 森林土壌生成促進材

森林が有する機能には、森林土壌の生成により発揮されるものが多くあり、スギ・ヒノキ人工林においても豊かな森林土壌の生成と保全が望まれ、健全な森林へ誘導することが求められている。

森林土壌生成促進材は、久谷ふれあい林の森林整備を行う過程で発生する枝葉や根株等を、チップ化または炭化し、森林内へ還元し有効に利用することを目的としている。さらに、本県林産物の代表であるシイタケの廃ほだ木を粉碎し、チップ・木炭とも散布することで、ほだ木内の微生物等により腐朽を促進し、豊かな土壌の生成を促進する。

